

会議録

会議の名称	男女平等参画推進委員会 平成22年度 第16回
開催日時	平成22年5月19日（水曜日） 午後7時から9時まで
開催場所	田無庁舎102会議室
出席者	出席：池田委員、青木委員、大野委員、虎頭委員、高木委員、角田委員、中村委員、北條委員、渡辺委員 欠席：西山委員、富田委員、寺内委員 事務局：飯島局長、浜名課長、藤巻係長、貫井主任
議題	1 第15回男女平等参画推進委員会会議録の確認について 2 第2次男女平等参画推進計画実績評価シートの確定について 3 条例策定に向けてのフリートーキング 4 委員会の総括（次期委員会への引継ぎ事項） 5 その他
会議資料の名称	1 第15回西東京市男女平等参画推進委員会会議録 2 評価シート作成版（案） 3 各区市条例（抜粋） 4 平成22年度予算額一覧
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>（開会）</p> <p>○委員長： 最後の会議となる。議題に入る前に、事務局から報告事項等をお願いする。</p> <p>○事務局： 4月1日で人事異動があり私は議会事務局へ異動した。僅か2年でしたが、皆様のお陰で計画が無事完成した。また去年7月に部課長研修会を初めて行い、一定の効果があった。御礼を申し上げる。</p> <p>○事務局： 4月1日の人事異動で、課長と部長が変わった。同日生活文化課は組織改正で、協働コミュニティ課と文化振興課となった。協働コミュニティ課の係としては、企画政策課にあった協働推進がこちらに移行し、消費者センターを含む市民活動推進係、そしてこの男女平等推進係の2つになった。挨拶とさせていただきます。</p> <p>1 第15回男女平等参画推進委員会会議録の確認</p> <p>○委員長：</p>	

第15回会議録について何かあるか。

○委員：

6ページの下から12行目、パリテまっりの講演会の講師を断った方の氏名を削除願う。

○委員長：

他になければ、削除し承認とする。

2 第2次男女平等参画推進計画実績評価シートの確定について

○委員長：

「第2次男女平等参画推進計画実績シート」について、最終確認をする。訂正等何かあるか。

○委員：

作成の留意点1行目、「平成21年度より評価シートを」を「平成21年度評価よりシートを」に訂正願いたい。

○事務局：

第2次計画の評価から評価方法を変えるのでそうなる。この3行は各課にシート作成を依頼する際の依頼イメージになる。

○委員：

記載例の強調とアンダーラインはいらないのではないか。

○事務局：

特に意図はないが、このシートは委員の方が評価し易いよう、また職員がポイントを押し記入できるようイメージして作成した。

○委員：

シート作成のポイント（記載方法）の課名生活文化課を組織改正後の協働コミュニティ課に訂正願いたい。

○事務局：

平成21年度用は生活文化課に、平成22年度用は協働コミュニティ課にする。

○委員長：

他にないか。なければ訂正後「第2次男女平等参画推進計画実績シート」を承認とする。

3 条例策定に向けてのフリートーキング

○委員長：

条例策定に向けて、西東京市長の裁量および状況を踏まえ、どんな活動方法ができる

か等意見はあるか。

○委員：

条例は当然あった方がよいが、西東京市の状況、時期を見て策定しないと中途半端になり取り返しがつかなくなる可能性があり、タイミングが大事であると考え。西東京市の現状について第1次計画策定後5年間の総評価をした中で感じたのは、実像に頼るよい計画はできているが、それを職員が確実に施策として実施できれば相当なパワーになるはずだが、来ていない。慌てて作成する必要はない。しかし計画に条例策定の検討とあるように、一步踏み出して欲シートという要望は市長へ毎年出してある。よって条例策定の下準備は進めるべきだと思う。先日の評価の提出の際の印象だと市長はマイナス状況を引き合いに出され、あまり積極的ではない。当委員会の立場および次期委員の方への申し送りとして、委員全員が条例の必要性を認識、確認し合い、足並みを揃えていく必要があると考える。

○委員：

時期を見る必要があるというのは、どういう意味か。

○委員：

東京都の中で有名なのは、荒川区の議会で「男女共同参画条例の条例案」を提出したが「男も女も」に対して、「男も女も互いの違い（特性）を認識したうえで」という文面が入るなど、「男女共同参画社会基本法」から逸脱する内容が盛り込まれ、区民の怒りを招き条例案を取り下げた例がある。なぜ条例が必要か、なぜ男女平等参画なのかという本質をしっかりと押さえておかないと、急ぎ策定されてもそれから遠くはずれてしまう。せつかく策定をしても、これが本当にお互いの人権を大事にしたものとして相応シートという意識を落としてしまう。また議会とバトルしながらギクシャクした状態で策定するのは如何なものかと考える。

○委員長：

委員の発言については、地域がというよりは一般的に男女平等に関して色々反論があり、その違いを考慮しながら男女平等の中身について議論されることになる。今までも働き方について「女性が働き続ける」ということについてブレーキをかけた人たちも居た。これは時期の問題ではなく今後もあり続けると思う。具体的にいえば議員の数、勢力等、議会の状況によると考える。千葉県でも収拾が着かなくなった例がある。

○委員：

この委員会というのは、承認した条例に基づいて、決定された事項であれば別だが、条例で裏付けがなければ、ある意味もろい。実際罰則があるわけではない。条例があれば首長が変わったとしても、少なくとも政治判断でそう簡単に物事を決定できない。

○委員：

委員の発言についてすごく理解できるが、ただし委員発言のとおり、首長や社会情勢が変わったりすることや、不況だから男女平等関係は進められないということになったり、要求が無視されたりすることが起こってはいけない。法令で裏づけされ、積み上げ

たものがきちんとした形になればよい。ただどのように進めるかを次期委員に託したい。条例策定については、常に念頭に入れ進めるよう検討いただきたい。市民の盛り上がりも重要である。

○委員：

委員に賛成。条例の裏付けがあつてこそ、活動ができると考える。また、前回の職員アンケートのコメントを見ると、職員の方でも少なからず男女平等が何を実現すべきかをだいたい誤解されている方がいる。私は男女平等とは権利を平等にすべきことだと理解している。だが職員は果たす機能だとか能力を平等にすべきだと勘違いしている発言がいくつも見られた。これを踏まえ、次期委員さんに取り組んでいただく活動は、そもそも男女平等とは何を指すものなのか、男女平等の本質とは何かを理解してもらえよう、計画書の評価に一文載せるなどしていただきたい。

○委員：

条例があるかないかで、先駆的な町か否か、住みやすい町か否かイメージ、判断される方がいることから、条例はあつた方がよい。

○委員：

全国の総会に参加した時、条例の話があつた。合併当初保谷市では行動計画が策定し、田無市も計画があつた。

○事務局：

この計画自体は合併後である。この委員会自体は条例で設置されている。市としては今後も男女平等を推進するために議論いただく市の諮問機関としての位置付けである。確か内閣府において平成12年に「男女共同参画計画」が閣議決定され、東京都でも平成13年に「男女平等参画基本条例」および平成14年に「男女平等参画のための行動計画」が制定され、機運が高まっていたときに、西東京市は平成13年に合併し、平成14年すぐに「男女平等参画行動計画推進委員会」を設置し、平成16年に「西東京市男女平等参画推進計画」を策定、今委員会でその5カ年の総評価をいただき、および平成21年3月「西東京市第2次男女平等参画推進計画」が制定された。その点では先駆的な自治体であると言える。

○委員：

条例は作って欲しいが、この会で条例を作るのはかなり大変で、勉強する必要がある。条例策定を次期委員会への申し送りとするのであれば、きちっと体制を整え、明確にする必要がある。

○委員：

今、4つの資料の各区市条例を見ていると、条例の表題の表現をとっても「男女平等基本条例」だったり「男女共同参画推進条例」だったり表現が違う。荒川区の例を見ても意図的に政治的な駆け引きの中、混乱した経緯がある。そういう意味で頓挫してしまった部分もあるように思われる。こういう状況の中では検討はともかく、条例策定は、時期を考えなければいけないと、改めて感じる。また策定するのは別の組織ではない

か。

○委員長：

条例策定については、当然である。しかし策定期間の機運、勢いが必要である。今、西東京市に条例がどうしても必要であるという機運が市民の側にもない。また制定するとき、誤解や偏見など反対意見に対して、NOと言える男女平等の本質をしっかりと押えた上で、共通認識を持ち、検討し基礎作りを進めていく必要がある。また、条例策定についてはこの委員会ではないという意見が出た。東京都内もしくは近隣市の状況を把握する必要がある。

○事務局：

委員会の機能として、西東京市男女平等参画推進委員会条例では男女平等参画推進計画の策定、施策の推進に関することという曖昧な表現になっている。施策の推進については毎年の計画の評価進行管理に当たる。この委員会では条例策定の基礎になる部分になっていただく解釈であって、この委員会で中身まで議論するのは乱暴である。引き継いでいただくのであれば、各市の状況を収集いただいて、毎年の評価報告を市長に提出する際に条例の必要があることを委員会の議論としてぶつけていただくことが必要である。また、この委員のメンバーのなかから専門の小委員会を作るべきではないか。

○委員：

機運はごもっとも、提案がひとつある。協働コミュニティ課として勉強会をプランのなかに入れ、例えば年に1、2回他市との交流を計るなど、市報で一般市民に投げかけ、機運を上げられないか。条例策定の基盤作りをしていただきたい。

○委員：

西東京市第2次男女平等参画推進計画に条例設置検討委員会を設置し、条例の検討を行うとある。是非設置検討していただきたい。

○委員長：

小金井市男女平等基本条例の中に男女平等施策として、国内外の取組に連帯し「小金井市男女平等都市宣言」を行ったとあるが、具体的にどのように連帯しているのか、近隣市の例もあるので伺いたい。

○委員長：

では、次期委員会へ条例制定については日常的な課題であり、毎年の評価報告時に条例制定について主張し続け、情報収集、学習会の開催など制定に向け委員会として常に課題とし、共通認識を持ち基礎作りを進めていくことを申し送り事項とする。

4 委員会の総括（次期委員会への引継ぎ事項）

○委員長：

では最後に、委員としての活動の中で感じられたこと、および次期委員会に対する参考意見、申し送り事項を順番にお願いする。

○委員：

私は委員を2期務めたが、感想は事務局の方次第で活発になったり、そうでなかったりする、他力本願のようで恐縮だが、事務局は重要だ、今後ともよろしく願います。

○委員：

私は昨年から務めた。評価を進めるなかで感じたのは、何年間の間に少しずつ男女平等推進計画が進められていると感じた反面、その割にはまだ周知されていないと感じた。私は学校経営だが、様々の考えのあるなか保護者から意見を聞いて行っている。学校の仕事レベルで、この計画が市民の方に根付いていくには、あの手この手を使い進めていく必要性があると感じた。

○委員：

私は2期務めた、評価について、各課は毎年同じ事を記載している。もっと飛躍して欲しい。

○委員：

私は1期から務めた。少しずつ形になってきた。また、これは私の反省でもあるが、評価について、実際に行われていることが見えないまま各課と文書だけのやり取りになってしまい、職員との意見交換が必要と感じた。今後男女平等推進センター パリテの有効活用が必要である。委員会メンバーについては変わることも、残る事も必要である。また、市民の機運および学識経験者、事務局の熱意が必要と感じた。

○委員：

2期とだいぶ長く務めた。応募の動機は子どもが保育園に入れず、市に対して一言言うために応募した。入ってみると大変壮大な計画が実行されていて驚いた。行政は相当な労力を費やしていると感じた。その半面、知名度がもっと上がればと感じた。全体的には計画については多岐に渡り複雑で掴み切れない印象がある。実態的にどんな効果があるのか、自分自身も評価しているにもかかわらず、今ひとつ掴めない感覚がある。次期委員会では少しずつ改善してもらいたい。参加して行政はあらゆるところからあれやれこれやれと本当に大変な思いをしていると理解した。

○委員：

私は2期務めた。事務局の熱意によって活性化すると思った。部課長研修会が出来たのはとてもよかった。もう少し事前準備すれば話し合いが深まったと思うが効果的でとてもよかった。個人、グループの反省だが、各課とヒヤリングをしなかったことは反省点である。他に1次計画では、「男女ともに家庭的責任と両立できる就業環境づくり」となっていたが、2次計画では「ワーク・ライフ・バランスの実現」と表現が横文字に変わり、新聞でも取り上げ出されてきたが、現実とのギャップが大きくとてもわかりにくいと感じた。その中味をみんなで共通認識できるように深めて欲しい。最後に今までの委員会の資料を見たが、あまりに膨大な量で改めてびっくりした。紙の使用についてもっと資源・環境の観点から考えなければと感じた。

○委員：

職員は自身がやっている仕事を第三者に評価され、評価や指摘はごもつともと思う部分や、委員は半分または全然わかっていないと感じる部分があるはず。逆に職員から委員の評価したことに対しての意見を聞きたかった。やはり単にデータ・数字で評価していると、全体の一面しか見えてこないのが評価の難しさを感じた。また計画がある意味壮大すぎる。2次計画で削った部分もあるが、そこまで本当に出来るのという箇所がある。例えば「市内の企業に於ける男女平等意識の啓発」などは、人手や予算が必要な中、実際問題動けるのかと感じてしまう。

○委員：

私は市民の立場でもあり、パリテまつりの実行委員になりまつりにも参加、男女平等推進センターの利用者懇談会、および各事業にも参加し、色々加味しこの委員会のあり方を考えた。一つ目はたくさんの審議会があるなか、この委員会は専門性のある方のご意見、行政、市民などそれぞれの立場の方たちが率直な意見が多く出されたことは大変喜ばしい。特に思いの外、学校の先生に率直な意見を述べていただいたことは嬉しく大変有意義であった。二つ目に事務局への要望だが、管理職の研修会を今後とも、評価以外での一般職員とのつながりをその会で補うことができるので続けて欲しい。また先程、条例が市民の機運にかかっているという話があったが、市民にとってセンターパリテは唯一男女平等推進に関して実行できる場であり拠点でもある。是非有効活用を強く望む。実は先日パリテの利用者懇談会が行われた中でパリテまつりなどに推進委員会の方にもっと出席してほしい意見が出された。委員会では毎年の評価だけに偏りマンネリ化し、アクションがなくなる。委員も努力するが、事務局もセンターの企画運営委員会での行事など毎回の会議で報告していただき、橋渡しをしてパリテ（市民）とこの推進委員会が別のものであることを、発信していただきたい。現在私は女性史編さん委員会を立上げ市の補助金で西東京市の女性史を作っている。現在男女平等推進センターの職員に多大な協力を得て進めているが、職員が変わってももっとネットワークを組んで欲しい。計画の件だが、1次計画から実施されていないことがある企業との連携である。先程委員より壮大すぎる計画であると指摘があったが、青年会議所との連携を取るなど方法はあるので、実施していただきたい。最後に計画を進めるに当たって、委員のエネルギーを評価だけではなく、学識経験者のネットワークづくりなど他の手法で活かせないかと考えている。

○委員長：

3期やってきた。反省として、夜行ったパブリックコメント、パリテまつりに出席できなかったのが悔やまれる。後半、事務局との連携が形式的にメールでのみになってしまい打ち合わせをしなかった。また評価前に働く場担当者は職員とヒヤリングをされてきたが、私たちの担当部分ではなかなかできなかった。また評価後も担当者の評価に対しての意見も聞かないまま文書、言葉だけのやり取りだと、モチベーションも上がらないし充実感がないと思う。工夫が必要である。管理職研修会は絶対やっていただきたい。計画について冒険かも知れないが今年度の重点課題を思い切ってやっていただきたい。

また日野市の基本条例のなかに「男尊女卑の社会慣行や性別による固定的な役割分担意識が永年にわたり根強く残り」とある。古いとか新シートかそういう価値観がわりと固定化して出てきている。現在近代的な生活様式で生きている人間のなかでも、様々な

価値観がある。そのあたりの本音を率直に言えるよう、自分で自己規制しないでコミュニケーションを取らないといけないと感じた。職員も遠慮せずに委員と交流してほしい。次期委員にはそういう点を是非工夫してほしい。

○委員長：
他にないか。

5 その他

○委員長：
何かないか。

○事務局：
他に資料として22年度の予算書があるので説明する。去年と殆ど同じだが、保護事業のために車の予算がついた。また女性相談を嘱託にし、相談体系を変更した。

○委員長：
他にないか。なければ閉会とする。